講社通信

近江神宮日供神饌講
新版第二十八号
平成二十九年七月一日

本年の日供神饌講講社大祭・饗宴祭は、六月三十日、愛知県講元講員の皆様により大膳職以下所役をご奉仕いただき、賑々しく斎行できました。ご報告とともに講員の皆様に厚く御礼申し上げる次第です。

大津京遷都一三五〇年記念行事

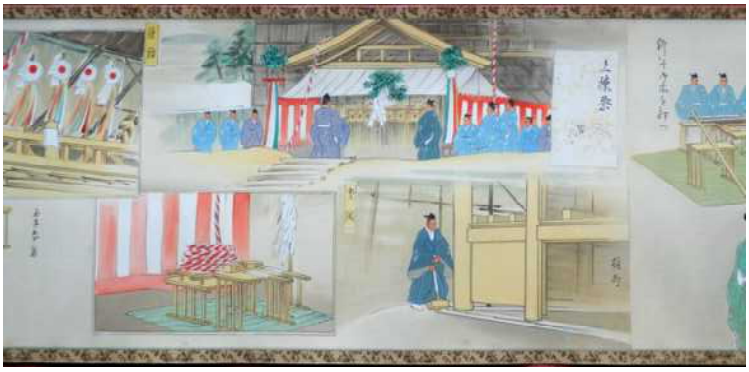
近江神宮の御祭神・天智天皇の六年（西暦六六七年）三月十九日、近江大津宮に遷都されてから満一三五〇年にあたる本年、三月十九日を太陽暦に置き換えた四月二十日の例祭にはその由が奏上され、昭和天皇のお誕生日にあたる四月二十九日には一三五〇年奉祝祭と記念行事が開催されました。

午後一時より奉祝祭、午後二時より、降雨により急遽中庭より外拝殿に移して、雅楽団体・奏和会による管弦と舞楽・蘭陵王の奉納、同刻に近江勧学館で中曽根語良氏（昭和聖徳記念財団理事）の講演会（「天智天皇と昭和天皇」）、午後三時四十五分よりコンサートが開催。コンサートの第一部は「神の宮～琵琶湖への祈り」と題し、佐藤宮司の龍笛、フルート・よし笛・ピアノ・声楽による創作音楽、第二部は「大津京の道実行委員会」関係者による音楽劇の声楽ダイジェスト「大津京幻想～いにしえから未来へ」。その後はジャズのコンサートとして、第三部は地元のアマチュアビッグバンド、第四部はニューヨークで活躍する中井勉トリオによる演奏が行われ、コンサート部分は三千円の有料でしたが、それぞれ二〇〇名前後の参列・観衆が集まり、大津京を偲ぶ一夕となりました。

『近江神宮御造営絵巻』『近江神宮御神徳絵巻』

昭和十九年四月、近江神宮奉賛会副会長を務めた下郷傳平氏（長浜町長・貴族院議員など歴任）から『近江神宮御造営絵巻』乾・坤二巻、『近江神宮御神徳絵巻』一巻が奉納されました。御造営の奉賛、奉賛会副会長としての報恩、金婚の記念にと、夫人と連名で奉

納されたものです。日本画家・久保田金僊（きんせん）画伯の筆になるもので、御造営絵巻には、鎮座地決定から地鎮祭以後の建築祭儀、竣工・奉祝の様子、御神徳絵巻には、中大兄皇子と中臣鎌足との出会い、大化の改新、大津宮遷都、即位式典、崇福寺建立、といった絵が描かれています。久保田金僊は明治から昭和の日本画家で、近江神宮の表玄関にも同画伯の筆になる「悠久の舞」の描かれた衝立が置かれています。



近江神宮オリジナル御朱印帳

近年御朱印ブームといわれ、各地の社寺では朱印帳を持って御朱印を求める参拝者が非常に多数にのぼっています。近江神宮では、かねてから社紋と近江神宮の文字を箔押しした朱印帳を授与していましたが、このたび新たなオリジナル朱印帳を製作し、授与を開始しました。全体が桜色の織物のなかに「御朱印帳」の文字と裏表紙には朱印の形が金襴で刺繍され、桜さざ波の社紋が縫い込まれ、ビニールカバーで包んであります。朱印料込みで一八〇〇円です。従来のものも当面授与しています。（こちらは一三〇〇円）

民謡・踊りの祭典・江州音頭大会

六月四日（日）恒例の流鏑馬神事が執り行われましたが、今回は、それに合わせて同日、滋賀県江州音頭普及会の主催により、第一回日本の民謡・民舞の祭典「江州音頭フェスタ」が開催されました。初心者からベテランまで十五団体六十名による江州音頭のほか、各地の民謡民舞による歌と踊りが終日賑やかな歌声に包まれました。フィナーレは三井寺の僧侶九人による声明で締めくくられました。

本年後半の祭典行事

七月七日午前十一時　燃水祭
七月二十二・二十三日　全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会
八月二十四日午前十一時　弘文天皇祭
八月二十七日午後一時　献書祭（全国献書大会表彰式）
十一月七日午前十一時　御鎮座記念祭
十二月一日午前十時　初穂講大祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。
http://www.oumijingu.org/「日供神饌講」ページ